



雨ニモマケズ...

「第2回たかしま市民まつり」で



西日本初 三尺玉打ち上げ

■表紙の写真

地域や年齢、組織の枠を超えて、ともに高島市を活気づけようと、高島市商工会青年部と(社)高島青年会議所が中心となって「第2回たかしま市民まつり」が、8月30日、今津総合運動公園で開催されました。8千匹を放した魚つかみ大会や6千個のエコ風船飛ばしをはじめ、大声コンテストやダンスなどの市民発表などが行われました。午後からは高島市出身のスペシャルゲストも登場し、時折雨の降る中、大勢の人たちが笑顔に包まれました。夜には、2008発の花火と西日本初の三尺玉が夜空を焦がし、ひととき大きな歓声が上がっていました。

- ②・③ 藤樹先生生誕400年祭関連事業
- ④ タウントピックス
- ⑤-⑦ お知らせ拡大版
- ⑧ いきいき元気生活
- ⑨ 国保年金あらかると
- ⑩・⑪ みんなで子育て、親育ち！
地域で子育て、親育て！
- ⑫ 防災・消防情報
- ⑬ 警察・交通事故発生状況・消費生活相談
- ⑭-⑮ 情報お知らせ版
- ⑯ 文化情報
- ⑰ 人権を考える、藤樹先生の逸話

広報たかしま

第75号

発行／高島市 編集／企画部秘書広報課
〒501-8601 滋賀県高島市新旭町北畑505番地 ☎0740(25)8130

http://www.city.takashima.shiga.jp
E-mail: info@city.takashima.shiga.jp

シリーズ 人権を考える

パート①

人権って何だろう？

「人権」とは、人間の尊厳や自由・平等を保障し、私たち一人ひとりの日常生活を支えている大切な権利です。

これまで日本では、人権という概念が「どのようにして解消するか」の問題として考えられてきた傾向にあります。しかし、特定の人たちを差別さえしなければ人権問題は解消するというこれまでの考えでは十分ではありません。自らがどのような行動をとるべきかを「考え・実践する」積極的な姿勢が不可欠となってきています。

人権は私たち一人ひとりのごく身近な問題です

人権は特定の人たちだけの問題ではなく、私たち一人ひとりの、しかもごく日常的な問題です。

私たちは毎日、テレビや新聞などからいろいろな情報を得て、毎日の生活

昭和23年に国際連合で「世界人権宣言」が採択され、今年で60年を迎えました。高島市においても本年3月定例議会で「高島市人権の実現を目指す条例」を制定し、4月から施行されました。

人権施策課では「高島市人権施策推進懇話会」を今年4月から全7回の予定でスタートします。

これを機に、「尊重・互助・共生の地域社会の実現」に向けて、「人権」について一緒に考えていきたいと思います。



に必要判断を下しています。これは「知る権利」と呼ばれる人権で、民主主義社会においてとても大切な人権です。一部のものは都合の良い情報を流せば、国民の下す判断が偏った方向へ動いてしまう危険があります。つまり「知る権利」は、人権が私たちみんなの問題であり、極めて日常的な問題であることを示しています。

また、「生命に対する権利」は、私たちが生きていくためのもっとも基本的な人権です。私たちは一人ひとり生まれた場所も時間も違います。もちろん生まれ持った資質も違います。私たち一人ひとりが自分たちの生まれ持った可能性をできるだけ伸ばすことができる社会こそ、理想的な社会といえるのです。さらに人権が一人ひとりのものである

以上、どの人の人権も同等に保障されなければなりません。その意味で私たちはすべて対等であり、平等といえます。お互いに他の人の人権を認め、他の人の個性を尊重しなければなりません。もちろん、出身地、国籍、人種、性など本人の意志や努力で変えることのできない事実を根拠として、その人を差別することは決して許されることではありません。人権が尊重される社会は、私たちの積極的な行動なくして築きあげることができません。人権は私たちの「権利」であるとともに、その実現のために何らかの行動をする義務を伴っているのです。

◆次回から、高齢者・障害者・女性・子ども・同和問題・外国人・患者の人権について考えていきます。

高島市人権施策課
TEL(25)80504
FAX(25)81002

藤樹先生の逸話⑥

「船賃を増す」

ある日、門人の洲岡山は、横浜村(現在の安曇川町横江浜)から川船に乗って、小川村の藤樹書院まで往きました。

日が落ちてたいへん肌寒かったため、船頭は、精一杯に船をこぎました。岡山は、その労に感謝して、少し多めに船賃を渡しました。

そのことを岡山から聞かされた藤樹先生は、「人には、それぞれの職業に応じて、それぞれの定められた報酬があり、これが天から与えられた利禄(りりく)というものです。もとより、自分勝手な考えで船賃を増やしたり、あるいは減らしたりしてはなりません」と注意しました。

【解説】

このころの洲岡山は、対岸の近江八幡にいましたので、おそらく琵琶湖を横断して横江浜村に着き、そこから川船に乗りかえたものと思われる。湖辺では川船が有力な交通機関でした。